

第9回 夏の教育セミナー報告

日本教育新聞社・(株)ナガセ主催

共通テストも見据えた授業提案

明日からの指導のヒント

基調講演

研究活動を組み込んだ入試も

文科省の平野博紀・大学入試室長は、大規模改革の現状や来年の入学者選抜などについて講演した。学力の3要素を多面的に評価しようとする選抜の導入について、試験の中に受験生の研究活動を組



文科省高等教育局 大学振興課大学入試室長 平野 博紀氏

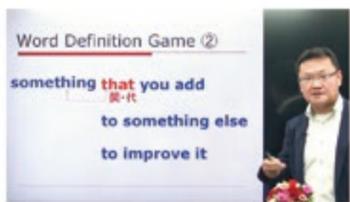
み込んだお茶の水女子大学の総合型選抜(新「ポルト入試」)などの事例を紹介。受験生の課題発見能力を評価できるだけでなく、受験者同士に連帯感が生まれ、不合格者の一般選抜への出願にもつながっているとする大学側の声も伝えた。来年の入学者選抜については、新「ポルト入試」に併せて、共通テストの追試験の会場設定を今年秋ごろに判断すると述べた。昨年度は47都道府県に設置している。各大学の個別選抜に対しては、調査書で、オンラインを活用した特別授業の参加日数などの記載の有無により、受験生に不利が出ないように扱うことと答えた。



横浜創英中学・高校(横浜市)校長補佐 新渡戸化学園ラーニングディレクター他

山本 崇雄氏

「教える」ではなく「支援」を 山本崇雄・横浜創英中学・高校校長補佐は、令和7年度以降の入試に向けた授業の組み立て方と評価の在り方について語り、どのように入試が変化しても、それに対応できる生徒を育てていくことの重要性を指摘した。過去の勤務校での英語の授業を動画も交えて紹介し、生徒が「コミュニケーション」



西武学園文理高校 (埼玉・狭山市)

土屋 進一 教諭

生物や古典との教科横断で 「教科横断的な視点に立った新たな授業実践」をテーマに講演した土屋進一・西武学園文理高校教諭。これまで他教科の教員と連携し、教科横断的な授業を行い、生徒の「分かった」「つながった」という発見を促してきた。講演では視聴者に向けて三つの体験授業を実施。1本目は英語×



東山中学・高校 (京都市)

鶴迫 貴司 教諭

振り返りの場面設定など鍵 鶴迫貴司・東山中学・高校教諭の講演テーマは「新学習指導要領に沿った授業のヒント」。本年度全面実施された新学習指導要領に合わせるべく、令和5年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」に示された、「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定」に焦点を当て

数学

最初に「単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか」「生徒にとっては「学習の方法」教師にとっては「指導の方法」に関して「数学的活動」を実践することなど新学習指導要領に沿った授業を実施するために重要な点を

英語

生物、2本目は英語×数学、3本目は英語×古典で、生徒の学びや気づきを追体験できるようにした。最後に教科横断型授業の五つの視点を提案した。最初の英語×生物の授業では、授業でミドリムシの特性などを学んだ後、英語でプレゼンをする課題を設定。内容はミドリムシなど

英語

「英語」のリーディング教材を自分たちで用意したり、入試問題に関わる情報交換を行ったりしている様子も伝えた。山本校長補佐が大事にしてきたのは「教えない授業」。勉強しなさい」という言葉を使わないことからはじめ、教員は「教える」のではなく「支援する」、「二人で学ぶ」を協

生物や古典との教科横断で

の生物を使った健康食品メーカーの社員になったつもりで、自社の製品を世界に売り込むものだ。生徒はこの内容を撮影し、1分間の動画にまとめて提出。今回のセミナーでは、この動画と生徒へのインタビューを紹介した。最後に教科横断型授業の長所として、言語習得に必要な「スキーマ」概念を意図的に獲得させることにつながり、外国語学習の効率化にも役立つと指摘した。

振り返りの場面設定など鍵

説明その上で、数学教育の意義の観点から「数学的活動」を明らかにし、「中学校との接続」に配慮し「すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う」「2科目の内容と系統的な考慮」の3点を軸として、授業の構築および展開に関する実践例では、重要な点や主軸に沿って出題した8問の問題を基に、具体的な授業内容や評価の仕方などを紹介した。



宮城県仙台第三高校(仙台市) 渡部 敦 SSH・授業づくり研究センター長 (講演者) 村田 淳 SSH担当(共同研究者)

「切り返し発問」 学習指導要領の改訂により、公民科で新たな必修科目となった「公民」。今後の大学入試で「思考力」を問う出題の重みが増す中、筑波大学附属駒場中・高校の山本智也教諭は、公民での思考力について「概念や理論への抽象的な理解を日常生活や現実社会の課題に活用し、討論や発表に生かすこと」

探究

内容や発表、複数の目で評価 は、同事業の一環で取り組んだ理科の課題研究の取り組みを報告した。ポスターや口頭による発表の場を多く設ける「学習サイエンス・ハイスクール」事業で培った課題研究の取り組みと生徒の進捗の傾向を、豊富な資料を基に紹介した。探究学習の評価方法なども確認できる内容となった。これまでの成果の振り返りで



筑波大学附属駒場中・高校 (東京・世田谷区) 山本 智也 教諭

「切り返し発問」 学習指導要領の改訂により、公民科で新たな必修科目となった「公民」。今後の大学入試で「思考力」を問う出題の重みが増す中、筑波大学附属駒場中・高校の山本智也教諭は、公民での思考力について「概念や理論への抽象的な理解を日常生活や現実社会の課題に活用し、討論や発表に生かすこと」

公共

「切り返し発問」 学習指導要領の改訂により、公民科で新たな必修科目となった「公民」。今後の大学入試で「思考力」を問う出題の重みが増す中、筑波大学附属駒場中・高校の山本智也教諭は、公民での思考力について「概念や理論への抽象的な理解を日常生活や現実社会の課題に活用し、討論や発表に生かすこと」

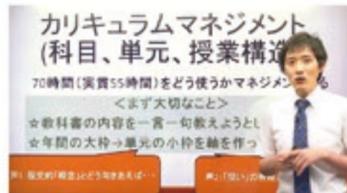


武威野大学中学校・高校 (東京・西東京市) 糟谷 武志 教諭

人口問題を考察、班で深掘り 新科目「地理総合」の授業づくりについて話したのは武威野大学中学校・高校の糟谷武志教諭。令和7年度以降の大学入学共通テストの出題傾向を把握し、探究的な学びに取り組み授業を提案した。「人口問題」を題材にした授業では、最初に、世界の人口の推移

地理総合

人口問題を考察、班で深掘り 新科目「地理総合」の授業づくりについて話したのは武威野大学中学校・高校の糟谷武志教諭。令和7年度以降の大学入学共通テストの出題傾向を把握し、探究的な学びに取り組み授業を提案した。「人口問題」を題材にした授業では、最初に、世界の人口の推移

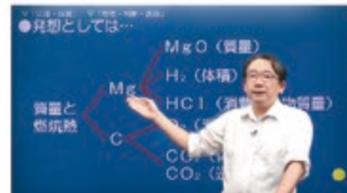


神戸大学附属中等教育学校 (神戸市) 奥村 暁 教諭

答え求めず、考える手法伝授 新科目「歴史総合」を担当した神戸大学附属中等教育学校の奥村暁教諭は、授業設計におけるカリキュラム・マネジメントのコツや学習評価の方法などを解説した。奥村教諭は授業の計画に当たって、年間を通して軸となるテーマを設定し、生徒が身に付けるべき資質・能力をその単元に割り振る。

歴史総合

答え求めず、考える手法伝授 新科目「歴史総合」を担当した神戸大学附属中等教育学校の奥村暁教諭は、授業設計におけるカリキュラム・マネジメントのコツや学習評価の方法などを解説した。奥村教諭は授業の計画に当たって、年間を通して軸となるテーマを設定し、生徒が身に付けるべき資質・能力をその単元に割り振る。



東京都立多摩科学技術高校 (東京・小金井市) 田中 義靖 指導教諭

時間かけず実験、考察を長く 田中義靖・東京都立多摩科学技術高校指導教諭は、今回の学習指導要領改訂で導入された観点別評価に基づいて授業を行う際、「思考」が特に重要になると指摘。生徒の「思考」を促す授業を多く紹介した。この中には、濃度の異なる食塩水を生徒に与え、どちらが濃いかを調べる方法を考えさせて実験させるといったものがあった。解答としては、同じ体積の食塩水から水分を取り除き、残った食塩水の質量を比べる、同じ体積の食塩水の質量を比べるといった実験例を示した。塩分を沈殿させる試薬(硝酸銀水溶液)を使って、沈殿物の量を比べる実験例も挙げた。

化学

時間かけず実験、考察を長く 田中義靖・東京都立多摩科学技術高校指導教諭は、今回の学習指導要領改訂で導入された観点別評価に基づいて授業を行う際、「思考」が特に重要になると指摘。生徒の「思考」を促す授業を多く紹介した。この中には、濃度の異なる食塩水を生徒に与え、どちらが濃いかを調べる方法を考えさせて実験させるといったものがあった。解答としては、同じ体積の食塩水から水分を取り除き、残った食塩水の質量を比べる、同じ体積の食塩水の質量を比べるといった実験例を示した。塩分を沈殿させる試薬(硝酸銀水溶液)を使って、沈殿物の量を比べる実験例も挙げた。

第9回 夏の教育セミナー報告

高校の新指導要領、新科目に対応

基調講演

指導と評価 一体化で授業改善を

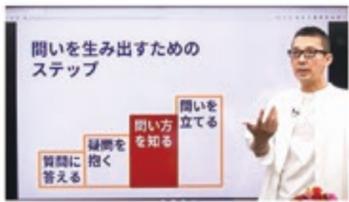
本年度から学年進行が始まった新学習指導要領と、それに伴った学習評価。文科省の矢幅清司・初等中等教育局視学官は、指導と評価の一体化による授業改善のヒントを提案した。

文科省初等中等教育局視学官

矢幅 清司氏

今回の学習指導要領で明確化された指導と評価の一体化とは何か。矢幅氏は、中央教育審議会委員の市川伸一・東京大学名誉教授の「指導したことをきちんと評価する。評価したことをきちんと指導する」ということだ、という言葉を引用しながら、学習指導要領・生徒の学習改善や教員の指導改善につながるものにする、ことが重要だと語った。

の参考にするよう呼び掛けた。



中央大学附属中学校・高校 (東京・小金井市) 齋藤 祐教諭

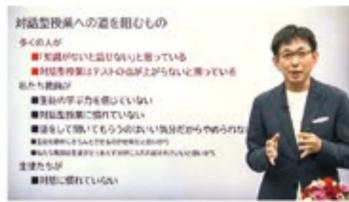
齋藤 祐教諭

中央大学附属中学校・高校の齋藤祐教諭は国語科の授業を通じて、自分で問いを生み出せる生徒、学び続ける生徒を育てることを目標にしてきた。問いを立てるためには、問い方を知る必要がある。そこには、教員の働きかけの余地があるという。問いは、答えが用意されていない、葛藤をもたらすものがよい。

答えのない問い 投げ掛けて

国語

「夏目漱石で、先生はなぜ自ら命を絶ったのか」を挙げた。齋藤教諭が「現代の国語」の実践で取り上げたのは、メディアリテラシーについて扱った「メディア」と現代社会の課題の單元「文学」作品の「数の中」(芥川龍之介)や、うすくまっける少女とその少女の物語の力を伸ばすことを呼び掛けた。



渋谷教育学園渋谷中学高校 (東京・渋谷区) 河口 竜行教諭

河口 竜行教諭

渋谷教育学園渋谷中学高校の河口竜行教諭は、国語の対話型授業のつくり方を中心に講演し、「国語でこそ対話的な授業をすること、他教科へ波及するなど話した。河口教諭は、対話型授業を進めるにはまず、生徒たちが「対話の仕方」を身に付ける必要があるとし、その練習方法として最初は誰

自己紹介で対話の仕方練習

国語

でも話しやすい自己紹介を勧めた。練習では、話しやすいテーマを設定する▽相手と言葉を評価も否定せず、安心・安全な場をつくる▽聞き手、相づちで傾聴する▽感想を伝える時間をつくることを意識するよう提案した。対話型授業をする際は、教員は指示でつくったテーマで話すことが



立命館宇治中学校・高校 (京都・宇治市) 酒井 淳平教諭

酒井 淳平教諭

「今こそ大切な授業研究」をテーマにした立命館宇治中学校・高校の酒井淳平教諭。「数学」授業を通して育てたい力を説明し、共通テストでは「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」を意識的に問おうとしており、それは教員が数学教育で取り組みたかったことを実現するチャ

気付き・アウトプットを重視

数学

「今こそ大切な授業研究」をテーマにした立命館宇治中学校・高校の酒井淳平教諭。「数学」授業を通して育てたい力を説明し、共通テストでは「知識・技能」だけでなく「思考力・判断力・表現力」を意識的に問おうとしており、それは教員が数学教育で取り組みたかったことを実現するチャ

日本教育新聞社と、東進ハイスクールを運営するナガセによる第9回の「夏の教育セミナー」が8月10日から31日までオンラインで開催された。本年度から始まった高校の新科目などの授業づくりと学習評価について、豊富な実践報告が行われ、明日からの指導に役立つ授業改善のヒントが示された。基調講演は文科省の平野博紀・大学入試室長と矢幅清司・初等中等教育局視学官が行った。大学入試改革の最新動向や、指導と評価の一体化の視点から見直す授業づくりについて語った。

「授業改善のヒントが示された。基調講演は文科省の平野博紀・大学入試室長と矢幅清司・初等中等教育局視学官が行った。大学入試改革の最新動向や、指導と評価の一体化の視点から見直す授業づくりについて語った。」

志を育む特別講座

第一線の研究者・企業人から刺激



本物との出会いで高校生の志を育む、東進の特別講座も限定公開された。神経科学と薬理学が専門の東京大学大学院薬学系研究科の池谷裕二教授は「写真右二は『脳が秘める力』をテーマに記憶のメカニズムなどを講演。SK Driveの福澤知浩代表取締役は『VDRIVEの福澤知浩代表取締役IIの挑戦を語った。』

参加者の声

【基調講演】最後に事前質問が紹介されていたが、どの質問も目録より職員室でたびたび話題に上っているものばかりだった。紹介のあった資料を、早速読んでみようと思った。(大分県・数学科)

生徒の意欲の大切さ理解

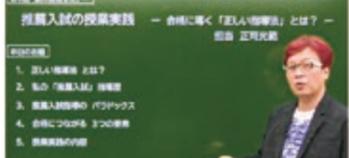
【探究】生徒の意欲を大切にすることが、スベシリストのチーム戦という点に印象に残った。生徒がいかに意欲的に取り組めるかという点を、もう一度考え直したい。(滋賀県・地歴科)

思考の引き出し方が具体的

であり、その比重は増していくものと思われる。英語教育と他教科を結びつけた今回の授業は非常に刺激となった。(東京都・英語科)

思考の引き出し方が具体的

【英語】教科横断教育は新学習指導要領の柱であり、その比重は増していくものと思われる。英語教育と他教科を結びつけた今回の授業は非常に刺激となった。(東京都・英語科)



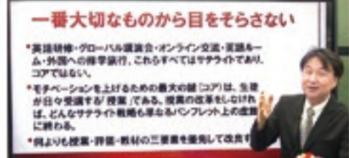
東進ハイスクール・東進衛星予備校・早稲田塾講師 正司 光範氏

正司 光範氏

正司光範・東進ハイスクール・東進衛星予備校・早稲田塾講師は、指導の鍵として「生徒の主体性を育むこと」を挙げた。多くの生徒を推薦入試合格に導いた実績から、「合格につながる要素には『オリジナリティー』『教養』『学問的資質』の三つがある」と述べた。推薦入試でも定員数が増加傾向に

小論文・推薦入試

ある推薦入試。まずは書類審査で必要な志望理由書の作成方法に注目が集まる。しかし、教師がその指導を熱心に重ねるほど、不合格になりやすい矛盾について説明した。要因の一つは、教師の言っていることだけを再現しようとしてしまう生徒側の受動的態度。それが問題となるのは書類審査後の面接で、質問に答えられなくなってしまう点などを挙げた。また、大学が求めている資質(科学的思考力やリ・ガルマインドなど)を育む重要性も指摘。日常的なトレーニング方法として、「写経」(新聞社記事の書き写し)や「主体的な読書」などを紹介した。それらに加え、過去に出題された小論文の問題に取り組むことで「学問的センスも身に付いていく」と述べた。



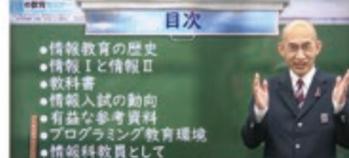
東進ハイスクール・東進衛星予備校講師 安河内 哲也氏

安河内 哲也氏

安河内哲也・東進ハイスクール・東進衛星予備校講師は「Active English Program」(AEP)の取り組みを中心に紹介した。「学校英語教育改革プログラム」とも呼ばれ、自身の立ち上げた実用英語推進機構の一事業。4技能重視の新学習指導要領を踏まえ、授業改善で参

英語

考にしたい内容が満載だった。例えば、「音声を聞いた授業と評価」は「AEP」の取り組みのポイントの一つ。安河内氏の説明の中で注目すべきは、4技能対型の評価の取り組みだった。スピーキングの評価は難しく、学校現場の興味・関心は高い。「AEP」では専用パスポートを配り、授業中の



工学院大学附属中学校・高校 (東京・八王子市) 中野 由章校長

中野 由章校長

「情報」は令和7年度共通テストから出題科目に加わり、国立大学協会も一次試験で必須とすることを決めている。中野由章・工学院大学附属中学校・高校校長は「他教科・科目での活用を含め、学びの基盤となる『スタディスキル』の要素が非常に強い。学校教育をひっくり返るため取り組んでい

情報

「ピクトグラミング」(ピクトグラム言語の「Python」やフローチャートを活用した「PYTHON」を実演しながら紹介した。政府のGIGAスクール構想を受け、高校でも整備が進んでいる1人1台の情報端末にも触れた。「自宅で授業の続きができる意義は大きい。さまざまな制限を設けてはいるが、さまざまなツール・オンラインより使いやすくなる運用が必要だ」と話した。



広尾学園中学校・高校 (東京・港区) 木村 健太 医学博士

木村 健太 医学博士

広尾学園中学校・高校の木村健太教諭は「総合的な探究の時間」について、探究の入り口となる研究テーマの設定方法を中心に講演した。研究テーマを決めるに当たっては、社会的に求められているか、生徒の関心や夢、実現性の有無の三つを意識させているという。また、新規性を出すためにも、先行

探究

研究の調査を怠らないように強調している。研究に取り組ませる上で、研究テーマ決めの参考にしたいという。京都大学の山中伸弥博士らから、ヒアルロン酸に関する論文などを紹介。ヒアルロン酸を使用しながら細胞の増殖抑制について研究テーマとする生徒もいた。木村教諭は「自分のやりたいことを通い、社会に貢献することを教えることが大切」と述べた。探究の授業での教員の役割についても触れた。生徒の研究を支える三つの役割として、「生徒と一緒に考える」「研究に取り組む環境をつくる」「視点や考え方を伝える」を挙げた。木村教諭は「探究を進めるには、教員も生徒も楽しむことが大切。楽しければ生徒も自分で興味・関心を深めていくもの」と強調した。

関心・夢を社会貢献へつなぐ

して社会に貢献することを教えることが大切」と述べた。探究の授業での教員の役割についても触れた。生徒の研究を支える三つの役割として、「生徒と一緒に考える」「研究に取り組む環境をつくる」「視点や考え方を伝える」を挙げた。木村教諭は「探究を進めるには、教員も生徒も楽しむことが大切。楽しければ生徒も自分で興味・関心を深めていくもの」と強調した。

※今後も高校の先生方に役立つセミナーを企画していく予定です。